

## 第4章

### 実現に向けて



## 第4章 実現に向けて

### 4-1 目標指標の設定

#### (1) 目標指標の設定の考え方

目標指標は、都市・地域交通戦略の基本方針、将来像に向け、戦略の柱に示す各取組みを実施していくことで、課題が解決され、市民にとっての移動やお出かけのしやすい環境の整備が進み、それにより「住みたくなるまち日本一」を実現していくための目標を設定します。

下図のように、基本方針達成に向けた「まちづくりの視点」に基づく目標指標と、戦略の柱に対応した交通の視点に基づく目標指標を体系立てて設定します。なお、短期・中期・長期の5年ごとの評価が出来るよう、調査や統計取得方法にも留意し、富谷市公共交通ランドデザイン（都市・地域総合交通戦略（基本構想））における考え方を踏まえながら、都市・地域交通戦略の目標指標を以下の通り設定します。

#### 基本方針、将来像、都市構造

#### 【交通戦略】基本方針 「住みたくなるまち日本一」にふさわしい交通環境の実現

##### 【目指す交通の将来像】

- 将来像 1 さまざまな選択肢のある環境負荷の少ない交通環境の実現
- 将来像 2 あらゆる世代の人がいきいきと活動できる交通環境の実現
- 将来像 3 都市部、郊外部にすばやくアクセスできる交通環境の実現

【将来の都市構造】  
軸、拠点

#### 目標指標の設定

#### まちづくりの視点による目標指標設定

- 【全体目標】
- ①人口増
  - ②暮らしたい理由

富谷市のまちづくりの実現に向け進んでいるか

#### 交通に関する課題

課題1 富谷市と仙台市泉中央駅を結ぶ広域交通の改善・強化が必要

課題2 市内・市外への移動で利用可能な路線バス網の維持・改善が必要

課題3 市内・市外への円滑な移動に向け道路混雑緩和が必要

課題4 市民が利用しやすい市内移動環境の整備が必要

課題5 歩行者、自転車の利用環境の整備が必要

課題6 使いやすい・分かりやすい交通手段の整備が必要

課題7 公共交通が「使いたくなる」意識への動機づけが必要

	将来像1	将来像2	将来像3
課題1	○	○	○
課題2	○	○	○
課題3	○	○	○
課題4	○	○	—
課題5	○	○	—
課題6	—	○	—
課題7	—	○	—

#### 戦略の柱

【戦略の柱1】  
広域交通として「移動しやすい交通環境」の取組み

広域交通として、市内外へ移動しやすい交通環境を実現します

戦略の柱1 幹線交通強化を中心とした取組みに関連する目標(施策①～④)

【戦略の柱2】  
広域交通への接続と市内移動環境として「お出かけしやすい交通環境」の取組み

民間路線バス、市民バスの他、様々な技術を活用し、お出かけしやすい交通環境を実現します

戦略の柱2 フィーダー交通の充実を中心とした取組みに関連する目標(施策⑤～⑧)

【戦略の柱3】  
多様な関係者の協働による「分かりやすく使いたくなる交通環境」の取組み

行政、交通事業者、市民が連携し、市民が使いやすい交通環境、使おうと思える交通環境を実現します

戦略の柱3-1 利用のしやすさ向上(施策⑨、⑩)  
戦略の柱3-2 移動しやすい交通環境の整備(施策⑪)  
戦略の柱3-3 環境負荷の軽減に向けて(施策⑫)を中心とした取組みに関連する目標

#### 交通の視点による目標指標設定

- 【戦略の柱1に対する目標指標】
- ①鉄道・バスの利用
  - ②乗り継ぎ利用

市内外の利用が促進されているか

- 【戦略の柱2に対する目標指標】
- ①市民バス利用率
  - ②市民バス利用数

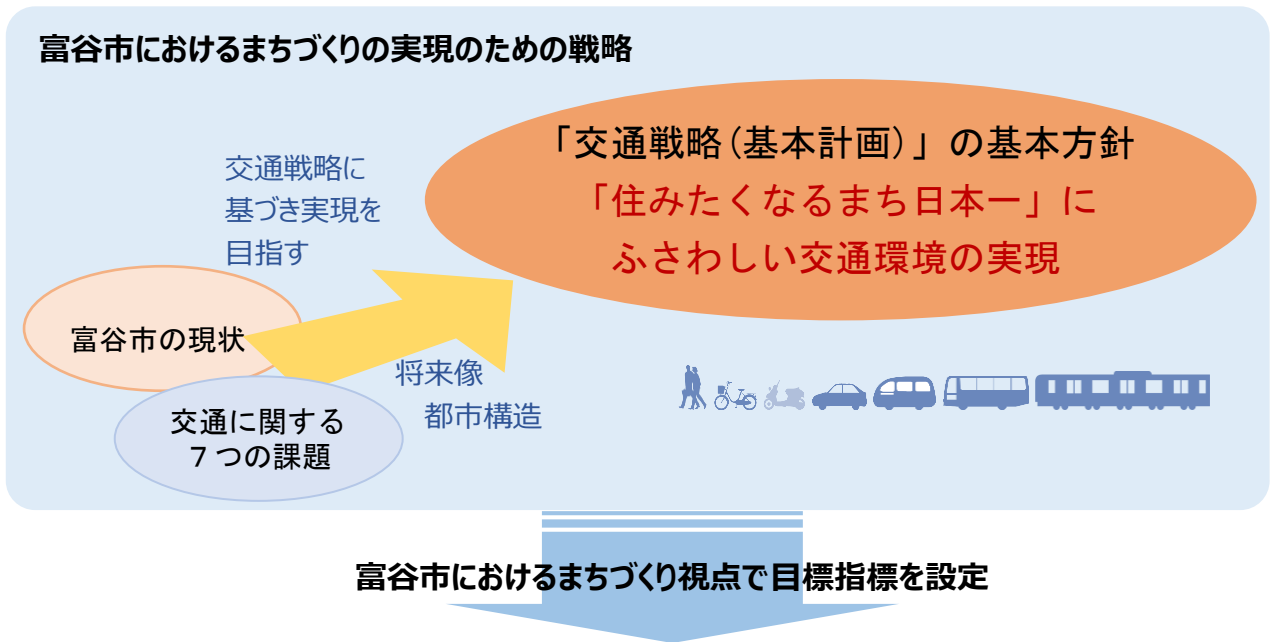
市内の利用が促進されているか

- 【戦略の柱3に対する目標指標】
- ①多様な取組
  - ②市民協働の取組

多様な取組み市民協働が促進されているか

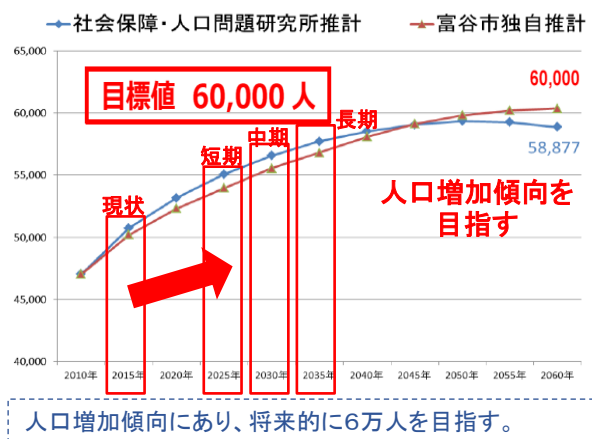
(2) まちづくりの視点に基づく目標指標（まちづくり実現のための交通戦略）

都市・地域交通戦略は「富谷市におけるまちづくりの実現のための戦略」であることを意識し、大上段として「まちづくりの視点」にたった目標指標を設定します。

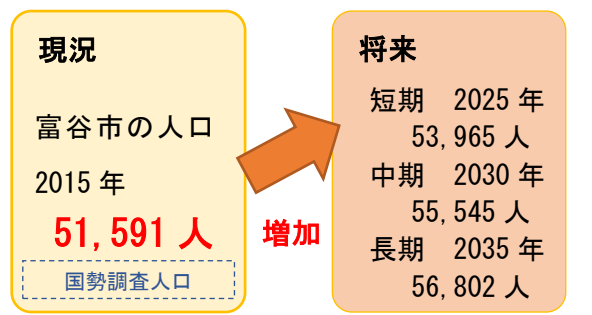
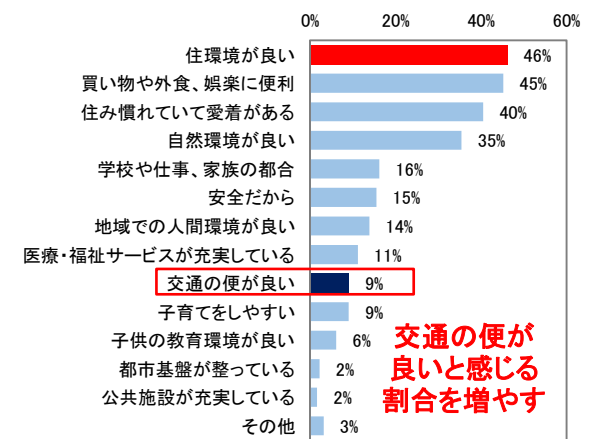


**まちづくりの視点からの目標指標**

**全体目標① 人口の増加傾向の維持**  
(目標6万人に向けた増加)



**全体目標② 富谷市の暮らしたい理由**  
(交通の便が良いとの回答の増加)



富谷市人口ビジョンに掲げる人口増加の目標値達成に向け交通環境を改善します。



富谷市に暮らしたくなるために「交通の便」の満足度を上げることが重要です。

(3) 交通の視点に基づく目標指標

交通戦略における方針、将来像の実現にむけた戦略の柱1～3（および12の施策）実施による達成状況を評価するため、以下のように交通の視点からの目標指標を設定します。

交通の視点からの目標指標

[戦略の柱1]

広域交通として「移動しやすい交通環境」の取組み

戦略の柱1 幹線交通強化 を中心とした取組みに関連する目標(施策①～④)

目標1-① 鉄道、路線バス利用の増加  
(基幹的な交通の利用促進) ※分担率

現況

鉄道 15.9%  
路線バス 15.4%

交通市民意識調査

増加

中期目標

鉄道 20～30%  
路線バス 20～30%

長期的な位置づけの基幹交通システム成立のために必要な需要形成を目標

目標1-② 路線バスへの乗継利用の増加  
(基幹的な路線バスの利用促進)

現況

H30年度 10～15人/月  
R1年度 15～20人/月

利用実績

増加

中期目標

乗継利用者数 25～30人/月

市民バス利用者数の乗継利用割合を用い、将来の目標値にあわせ設定

[戦略の柱2]

広域交通への接続と市内移動環境として「お出かけしやすい交通環境」の取組み

戦略の柱2 フィーダー交通の充実 を中心とした取組みに関連する目標(施策⑤～⑧)

目標2-① 市民バス利用の増加  
(フィーダー交通の利用促進) ※分担率

現況

市民バス 2.2%

交通市民意識調査

増加

中期目標

市民バス 3.0%

目標2-②の数値と連動して設定

目標2-② 市民バス利用の増加  
(フィーダー交通の利用促進) ※利用者数

現況

H30年度 89,059人/年

利用実績

増加

中期目標

市民バス利用者数 115,000人/年

人口増目標+αとして3割程度増を設定

[戦略の柱3]

多様な関係者の協働による「分かりやすく使いたくなる交通環境」の取組み

戦略の柱3-1 利用のしやすさ向上(施策⑨、⑩)

戦略の柱3-2 移動しやすい交通環境の整備(施策⑪)

戦略の柱3-3 環境負荷の軽減に向けて(施策⑫)を中心とした取組みに関連する目標

目標3-① 情報・運賃・PRによる取組み  
(交通を利用しやすくする施策の実施)

現況

現在の取組み(無料乗車券、乗継制度、公共交通ブック)

増加

中期目標

情報・運賃・PRの新たな取組み7施策

施策⑥～⑫の7施策を短期、中期で実施

目標3-② 市民参画、協働の仕組み  
(市民の積極参加、利用促進)

現況

現在の取組み(富谷市協働のまちづくり推進懇話会等実施)

増加

中期目標

公共交通に関する市民協働の取組みの実施(毎年)

施策⑫の利用促進活動に向けて実施

## 4-2 施策の実施、推進体制

### (1) 富谷市総合交通検討委員会を通じた進捗管理

交通事業者、交通管理者、関係機関や市民代表等で構成する「富谷市総合交通検討委員会」を継続開催し、「都市・地域総合交通戦略」の基本理念を実現するため、施策の進捗状況や評価指標の達成状況の確認を継続的に実施し、必要に応じ、適宜見直しを図ります。

#### <計画の実施主体、関係主体>

主体	分担
富谷市総合交通 検討委員会	計画に基づく事業実施の推進組織として、関係者間の協議の継続や、連携・調整を図ります。また、施策の実施状況や計画の目標に対して評価・検証し、市民への情報開示を行っていきます。
行政 (富谷市、宮城県等)	計画に基づく施策について、関係者間の連携や各施策間の調整を図りながら進めます。
公共交通事業者 (バス、タクシー事業者等)	計画に基づく施策について、関係者間で連携を図りながら進めます。
利用者 (市民等)	公共交通の積極的な利用、住民協議会への参加等を行います。
その他関係者 (まちづくり、団体等)	富谷市のまちづくりと一体となった交通戦略の取り組みが推進されるよう、まちづくりなどの関係者間で連携を図ります。

### (2) 進捗管理と計画推進

「都市・地域総合交通戦略」の12施策や計画を推進するため、実施プロセスや課題の共有、施策実施後の評価指標の達成状況の評価・検証を踏まえて、適宜改善・見直しを行うPDCAサイクルにより、進捗管理を行います。

#### <進捗管理、評価等の進め方>

